

オープン市場短信 (2013年3月)

2013. 3. 08

◆ 2月のCP市場動向

2月のCP月末残高は、16兆2355億円と前月比1703億円減少した。その他金融とABC CPが合わせて3000億円程度の残高減少となり、一般事法と金融機関が若干増加した。本決算期末を見据えて、3月末償還等ショートターム物の発行を行う発行体が多く、昨年同月同様に7割強が期内償還の発行となっていた。

発行レートは、一般事法では引き続き電気機器の一部を除き、0.105%から0.12%台前半での出会いであった。また、期末日償還物については多額の積み上げとなっているため、強含み地合いとなった。電機機器については、個々の銘柄について業績の見直しが行われたことから、一部銘柄ではレートが弱含み月初0.30%台前半であったが、月末には0.10%台後半に低下した。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄 (a-1+格) 0.106~0.110% 一般事業法人 (a-1格) 0.108~0.12%台前半
その他金融銘柄 (a-1格) 0.105%~0.135%

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	2月末残高	1月末残高	増減
一般事法	62,948	62,482	466
その他金融	53,479	54,979	▲ 1,500
金融機関	28,703	27,827	876
(政府系金融	460	510	▲ 50)
(銀行等	12,049	12,007	42)
(証券	16,194	15,310	884)
ABCP	17,225	18,770	▲ 1,545
計	162,355	164,058	▲ 1,703

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

2月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.1040% ~ 0.1110%	0.1060% ~ —	0.1060% ~ —
a-1 (一般事法)	0.1070% ~ 0.2600%	0.1050% ~ 0.3100%	0.1050% ~ 0.2000%
a-1+(リース銘柄)	0.1020% ~ 0.1049%	0.1010% ~ —	— ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.1060% ~ 0.1170%	0.1120% ~ 0.1320%	0.1050% ~ 0.1420%
a-2	0.154% ~ ケ 0.30	0.170% ~ ケ 0.40	0.113% ~ ケ 0.50

《CPオペ》

CP等買入オペは、2月は7日・18日オファーを3000億円、22日オファーを4000億円とし、3回実行となった。7日オファーのオペでは、1月末の発行増を受けてディーラーの応札ニーズが強まり、1/21のオペ以来三度目の1兆円を超える応札となった。

足切りレートは、7日と18日のオペではオファー額が3000億円に止まったことや応札希望銘柄が集中したこともあったためか、前回比強含みとなった。22日オファーでは、応札額が4000億円と増額されたことや月中の発行が少なくディーラーの保有玉が減少したこと等もあって、レートは0.100%台前半に低下した。

月末の買入オペ残高は、2兆352億円（前月比134億円増）であった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
2月7日	2月13日	3,000	10,138	2,792	0.104%	0.106%	51.3%
2月18日	2月21日	3,000	7,178	2,730	0.107%	0.113%	33.4%
2月22日	2月27日	4,000	6,055	3,975	0.100%	0.103%	73.9%

《ABC P》

ABC Pは、前月比1545億円減少し1兆7225億円となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は新規登録：日鉄住金鋼板、登録抹消：GEジャパンFがあり、493社で変わらず。2月末時点における通算の発行企業数は、日鉄住金鋼板が新規発行を行ったことから、523社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、2月中も落ち着いて推移(0.10%近辺~0.105%)した。

◆ 3月のCP市場動向

3月中のCP償還額は約5兆1200億円で、前年同月の償還額（約4兆8900億円）を上回っている（除く、金融機関発行CP・ABC）。期末日（29日）には、2兆5500億円（5日現在）の償還案件が集中している。有利子負債圧縮を見据えた例年通りの動きではあるものの、この償還額を勘案すると、今月末の発行残は昨年同様14兆円を割り込むと考えられる。また、期越物発行案件減少の影響は、期内物と期越物との発行レートの逆転現象が生じていることにも現れている。

今月の発行レートは、一般銘柄では、期内物0.11%近辺～0.12%台前半、期越え物で0.10%台半ば～0.11%台前半の動きを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物では、0.10%台半ば～0.13%台半ばを予想する。

《CPオペ》

今月は、8日（実施済）・14・22日と計3回の入札が実施される予定。8日のオペについては、オファー額が3000億円となっていたことや月末償還玉の売却等応札ニーズが強かったと思われ、按分・平均レート共に前回比強含みとなった。次回以降については、オファー額が4000億円と増額されることから、落札レートは若干低下すると思われる。月末オペ残高は、2兆円近辺を予想する。

《CP現先市場》

日銀の潤沢な資金供給姿勢は今月も変わらず、加えて金利低下予想が強くなっている。インターバンクレートは0.06%～0.08%近辺での推移。レポレートは、モノの需給が影響し0.05～0.09%近辺の出合いでの推移と思われる。

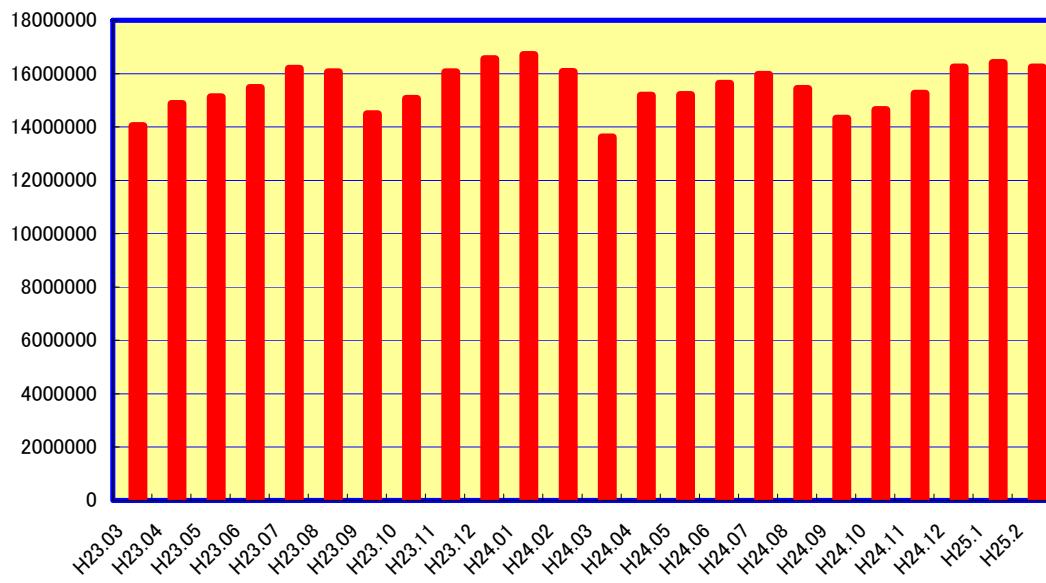
CP現先レートは、0.09%台～0.105%近辺での出合いを予想する。期越え現先レートに関しては、本決算期末のため運用が手控えられる為に、やや強含むものと思われる。

参考資料

短期社債月末残高 (22年3月～24年2月)

発行登録企業：493社（発行実績あり523社）

(過去2年間の残高を表示)



2月末発行残高ベスト20

2月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	2月末残高	1月末残高
1	三菱UFJリース	705,700	750,500
2	三井住友ファイナンス&リース	700,500	709,500
3	東京センチュリーリース	615,700	613,700
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	572,070	591,200
5	新日鐵住金	513,000	428,000
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	三菱UFJモルガンスタンレー証券	487,500	531,000
8	JXホールディングス	439,000	438,000
9	東 芝	428,000	404,000
10	三井住友信託銀行	414,900	447,100
11	興銀リース	334,900	332,900
12	JA三井リース	334,000	333,000
13	みずほ証券	300,800	274,400
14	アルカディア・ファンディング	298,980	314,980
15	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	275,540	305,850
16	三菱電機	274,000	294,000
17	大和証券	262,110	174,040
18	日立製作所	260,000	350,000
19	野村証券	257,300	211,300
19	芙蓉総合リース	223,700	236,700

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会